# 20周年をむかられる　水辺に遊ぶ会

大分県中津市　NPO「水辺に遊ぶ会」（代表足利由紀子さん）が来年 20 周年を迎えると聞いた。私はほぼ12年前 2006年に大分朝日放送の番組制作に関わってこの会の足利由紀子さんと出会いました。番組は「豊なる海～坂田明が見た豊前海の神秘」として 2007 年に大分県のみならず国内のかなりの局で放映された、また英語版も制作されてアーカイブとなっている。この番組の制作の根本を支えて協力を惜しまなかったのが「水辺に遊ぶ会」で足利由紀子さんにはほぼ全面的にご協力をいただいた。

このNPO が目指している「中津干潟と山国川水系の保全」というのはこの地域に根ざした活動であり、世界の干潟と水系の関係を明らかにしていくためにも重要なことです。既にラムサール条約があります通りに、むしろ世界はこういった干潟の保全は当然のこととして認識しているということであります。

私たち人間の歴史は高々数百万年ですし、現存人類の歴史はアフリカのイブ以来のたかだか 20 万年ぐらいのものです。その人類がこの美しい地球で我が物顔に振り回す人間中心主義、皆が知っている言葉にすればヒューマニズム、でもって破壊と汚染を積み重ねてきております。

私たち人間は命というものが何なのかを教えられないで暮らせば、滅亡に向かうのである、と知った方が良いでしょう。こういったことは誰が言ってるいったものではありません。人間が認識しなければならない基本中の基本であります。私たち人間は誰もが同じことは出来ません。それぞれが自分に出来ることをすればいいと思います。私は何も出来ないからといって嘆き悲しむこともありません。あなたがいること自体が既に役割があります。この世界の瞬間瞬間が、大変多層的なジグソーパズルとして、その一コマを地球上の誰もが担っています。大切なことは何か？それは私たちが地球の上に生まれた生き物であること、そしてこの地球上のすべての生き物と同じ価値があるということです。干潟に生き物が居るということが、山国川が自然の河であることが、わたしたちの生きる将来があるということです。今日の社会ではお金がないと生きていけないことは明白ですが、お金より命が大切だということを学ぶことが一番です。「ボランティアをやっている人は暇だからほっとけばいいとか、音楽なんて学校で教えなくていい」といった心の貧困さはお金がいくらあっても豊かさは来ないということです。干潟に行って生き物たちに出会い沈む夕日を見て育つ人の心が豊かさであります。私たちの心は風景によって育つのです。「水辺に遊ぶ会」は、来年 20 周年を迎えるそうですが、陰ながら応援いたします。

坂田　明